

クリオグロブリン		2102000			
		担当部署			
クリオグロブ		一般			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→免疫・自己抗体→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		<p>1) クリオグロブリンの形成は室温以上でも起こるので、血清の採血から分離までの間は保存温度に注意する。</p> <p>2) フィブリンなどがあると沈殿物が認められるが、これらは 37℃に加温しても再溶解しないので判別可能である。</p>			
検査受付時間		8 : 45～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		空腹時			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1 全血	1 2 茶	なし	10	mL	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		<p>保温 (37℃)</p> <p>採血後すぐに中央検査部に送る。送るまで人肌程度の湯につけておき、保温できるものに包んで送る。日勤帯 (8 : 45～16 : 00) に限る。</p> <p>受取後は直ちに 37℃恒温槽に入れる。</p>			
検体受入不可基準		<p>1) 採取容器違いの検体</p> <p>2) バーコードラベルの貼られていない検体</p> <p>3) 量不足</p>			

	4) 保温されていない検体 5) 強度溶血検体 6) 強度乳び検体					
保管検体の保存期間	保存不可					
検査結果・報告						
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部					
測定時間	1～7 日					
生物学的基準範囲	(-) EX 一般 228 : 検査項目解説 改訂第 4 版 三菱化学メディエンス					
臨床判断値	該当なし					
基準値					単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因	特記事項なし					
臨床的意義	クリオグロブリンは血清を低温(4℃)に放置したとき、白濁またはゲル化し、37℃に加温すると再溶解するという可逆的変化を示す。本体は病的免疫グロブリンであり、タイプⅠ(モノクローナル型)、タイプⅡ(モノクローナルとポリクローナルの混合型)、タイプⅢ(ポリクローナル混合型)の3つのタイプに分類される。					